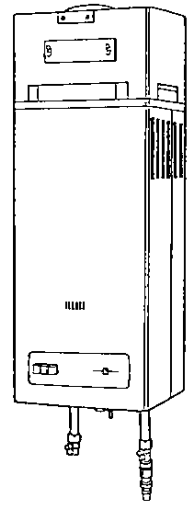
ガス給湯器
（厨房排気ダクト直結型）
33－309型
取扱説明書

型式名：PH－161MD



このたびはガス給湯器をお求めいただきまして、ありがとうございました。

●正しく安全にお使いいただくために、ご使用前にこの「取扱説明書」を必ず最初から順番にお読みいただき、よく理解してくださるようお願いいたします。また、この「取扱説明書」をいつでもすぐに取り出せるところに大切に保管しておいてください。
●この「取扱説明書」に書かれている内容以外ではご使用にならないでください。

＊別添の保証書はこの取扱説明書とともに、大切に保管してください。
＊取扱説明書を紛失された場合は、裏表紙に記載のお近くの大阪ガスまでご連絡ください。

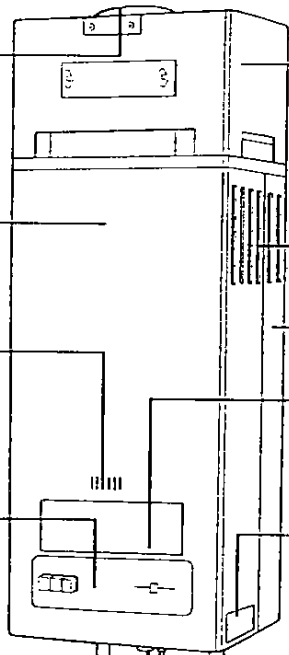
各部のなまえ …… 52
必ずお守りください …… 53
使用方法 …… 56
凍結を防ぐには …… 58
点検・お手入れ …… 59
故障かな？と思ったら …… 60
仕様 …… 62
寸法図 …… 63
保管とアフターサービス …… 64

大阪ガス

P

各部のなまえ

●本　体



ダクト接続口

排気フード

フロントカバー

側面給気口

バックカバー

点火確認窓
この窓から点火を確認します

本体表示
使用上の注意について表示しています

操作部（下記参照）

銘　板
型式名・使用ガスの種類・製造年月・製造事業者等を表示しています

ガス接続口（ガス入口）

水抜き栓兼逃し弁

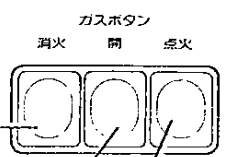
水抜き栓
機器内の水を抜くときに開きます

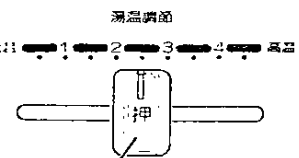
給水接続口（水入口）

給湯接続口（湯出口）

水抜き栓
機器内の水を抜くときに開きます

●操 作 部





消火ボタン
パイロットバーナーの消火を行ないます

開ボタン
メーンバーナーへの点火の準備を行ないます

点火ボタン
パイロットバーナーへの点火を行ないます

湯温調節つまみ
湯温調節を行ないます

必ずお守りください

安全に正しくお使いいただくために

製品を正しくお使いいただくためや、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、この取扱説明書および製品への表示では、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠危険	この表示を無視して誤った取扱をすると、使用者が死亡または重傷を負う危険が切迫して生じることが想定されることを表しています。
⚠警告	この表示を無視して誤った取扱をすると、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される場合を表しています。
⚠注意	この表示を無視して誤った取扱をすると、使用者が傷害を負う可能性が想定される場合、および物的損害のみの発生が想定される場合を表しています。

絵表示には次のような意味があります。

	一般的な禁止		火気禁止		分解禁止
	必ず行う		接触禁止		

⚠危険

■ガス漏れ時の処置

ガス漏れに気付いたときは全ての処置が終わるまでの間、絶対に火をつけたり、電気器具（換気扇その他）のスイッチの入・切や電源プラグの抜き差しおよび周辺の電話を使用しない

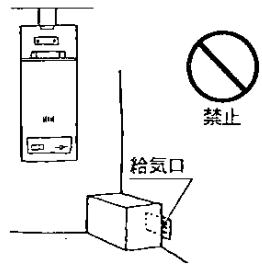
➡ 火や火花で引火し、爆発事故を起こすことがあります。

万一、ガス漏れに気付いたら
① すぐに使用をやめ、ガス栓を閉める
② 窓や戸を開け、ガスを外へ出す
③ お買い上げの販売店か大阪ガスに連絡する

■排気ダクトの定期点検

排気ダクトが外れたりつまったり、ふさがっていないか点検する

➡ 排ガスが室内に漏れて一酸化炭素中毒の原因となり危険です。



■換気に注意

しめ切った部屋で長時間使用しない

使用中はお部屋の換気口・給気口は常に開けて物などでふさがない

➡ 不完全燃焼の原因になります。

必ずお守りください

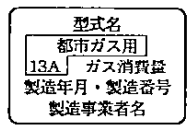
⚠警告

■使用ガスについて

供給ガスの種類と機器の銘板に表示のガスの種類が合っていることを確かめる、合っていない場合は使用しない

➡ 不完全燃焼および爆発点火や火災の原因になります。

＊おわかりにならない場合または合っていない場合はお買い上げの販売店か大阪ガスまでご相談ください。



ガスの種類を確認

■機器の設置

機器の設置、移動および付帯工事はお買い上げの販売店に依頼する

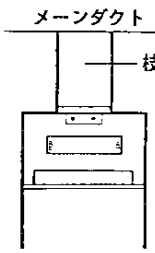
この機器は屋内用ですので屋外には設置しない

➡ 風により炎が機器の外にあふれて火災のおそれがあります。
また雨水の侵入や炎が風にあおられて故障の原因になります。

この機器は排気ダクト直結式であり、排気筒により単独で屋外へ排気するような設置はしない

➡ 排ガスが室内に逆流し、一酸化炭素中毒のおそれがあります。

必ずこの機器一台あたり1000㎥／hの規定風量が確保できる排気ダクトに接続する



排気ダクト直結

■排気に注意

メーンダクトの排気ファンが停止しているときは使用しない

➡ 室内に排ガスが逆流し、一酸化炭素中毒のおそれがあります。

■火災予防

機器および排気ダクトの周囲には何も置かない

➡ 火災の原因になります。

機器および排気ダクトの周囲にスプレー缶を置かない、近付けない

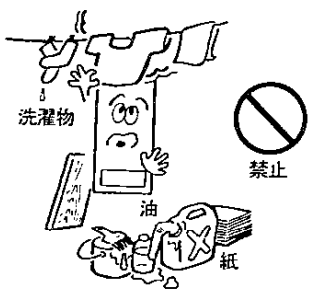
➡ 熱でスプレー缶の圧力が上がり、爆発のおそれがあります。

機器および排気ダクトの周囲ではガソリン・ベンジン・スプレーなどの引火のおそれのあるものを使用しない

➡ 火災、やけどの原因になります。

フロントカバーをはずした状態で使用しない

火をつけたままの就寝・外出は絶対にしない



■やけどに注意

給湯の使用中は使用者以外はお湯の温度を変更しない

➡ 突然、熱湯が出てやけどしたり、冷水が出てビックリすることがあります。

あついお湯の使用直後に、ぬるい温度に設定を下げた場合、しばらく流してから使用する

➡ すぐには湯温は下がりませんので、やけどのおそれがあります。

給湯栓を開けたときの出始めのお湯は一瞬あついことがあるので手や体にかけない

➡ やけどのおそれがあります。

湯量を少なくするときはゆっくり行う

➡ 急に行うと一瞬あついお湯が出ることがあります。

高温のお湯を使用後は湯温を「低温」に戻す

➡ 次に使用のときに、思わぬ高温のお湯が出て、やけどのおそれがあります。

■異常時の処置

異常な燃焼、臭気、異常音が感じられた場合は、運転を停止しガス栓を閉め「故障かな？と思ったら」（60ページ～）に従う

地震、火災などの緊急の際は、自分の身の安全を確かめてから、あわてずに運転を停止する

＊再びお使いになる前に必ずお買い上げの販売店か大阪ガスまで点検を依頼してください。

⚠注意

■用途について

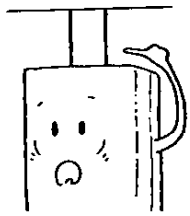
給湯以外の用途には使用しない

➡ 思わぬ事故の原因となります。

■やけどに注意

使用中や使用直後は、機器本体や排気ダクトや点火確認窓とその周辺は高温になっているので、操作部以外には手をふれない

➡ やけどのおそれがあります。



■井戸水・地下水をお使いの場合

特に硬水使用の場合、沸いたお湯を機器内にためておかない

➡ 石灰分が付着して詰まり、機器破損および水漏れの原因となります。

これを防ぐには下記のようにすると有効です。

① 使用後、消火ボタンを押してから給湯栓を開けて器体内のお湯を出す

② 給湯栓から冷たい水が出たら給湯栓を閉める

＊井戸水・地下水をお使いになって生じた故障についての修理・補修費用はお客様の負担となります。

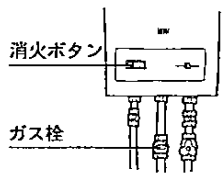
おねがい

■ガス事故防止

使用時の点火、使用後の消火を確認してください。

使用後は、必ず消火ボタンを押して消火したことを確かめてください。

お出かけやおやすみの時は安全のためガス栓を必ず閉めてください。



■特監法対象機器

この機器の設置工事および変更工事は、法律（特定ガス消費機器の設置工事の監督に関する法律）に基づいて行い、工事完了後、器体（機器本体）に法定のステッカー（表示ラベル）を貼り付けることになっておりますので、確認してください。

■飲用にお使いのときは

朝一番などのように長時間使わなかった後、お使い始めのまだぬるいお湯（洗面器一杯程度）は念のため、雑用水としてお使いください。

■長期間使用しない場合

長期間使用しない場合は、必ずガス栓・給水元栓を閉め、水抜きを行ってください。（水抜きをしないと、冬期は凍結による機器破損のおそれがあります。）詳しくは7ページをお読みください。

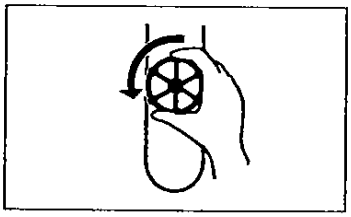
■補助具について

この機器用の付属品あるいは指定のもの以外は使用しないでください。

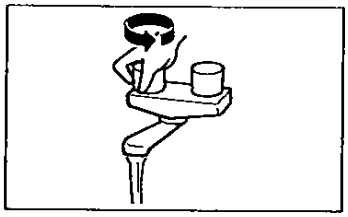
使用方法

点火前の準備と確認

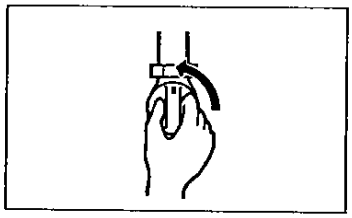
1 給水元栓を全開にします



2 給湯栓から水の出ることを確認します



3 消火ボタンを押したのちガス栓を全開にします



おねがい

- ●水を流しながらの点火操作は危険ですのでやめてください。
- ●ガス栓を開く際には、誤って機器が接続されていないガス栓を開いたり、他の機器のガス栓を操作したりしないように十分注意してください。

点　火

⚠警告

この機器は排気ダクト直結型ですので使用前に必ず排気ダクトのファンを運転（回転）させる、排気ファンが運転していない時は機器を使用しない

➡室内に排ガスが逆流し、一酸化炭素中毒のおそれがあります。

1 点火ボタンを「カチン」と音がするまで押します

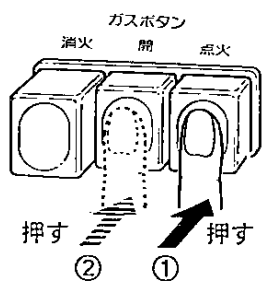
- ●パイロットバーナーに点火したことを点火確認窓より確かめ、そのまま約2秒間押し続けます。

＊手をはなしてもパイロットバーナーに点火していることを点火確認窓より確認します。

⚠注意

点火確認窓に目をあまり近づけない

➡熱でやけどのおそれがあります。



2 開ボタンを押します

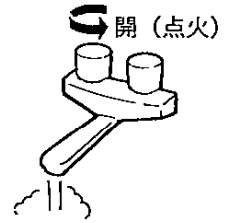
- ●給湯栓を開けると、メーンバーナーに点火する準備ができます。

点火ボタンと開ボタンを同時に押さないでください。

給湯・給湯停止

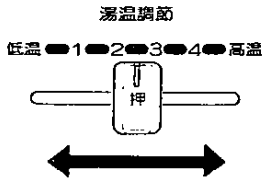
1 給湯栓を開けます

●メーンバーナーに点火してお湯が出ます。



2 湯温調節つまみを押しながら動かし、お好みの湯温に合わせます

●「高温」の方にすると湯量が少なくなります。
「低温」の方にすると湯量が多くなります。



3 給湯栓を閉めます

●メーンバーナーが消火します。

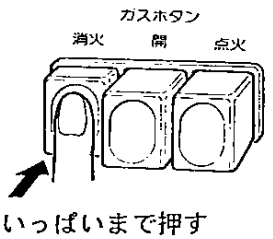
＊以後は、パイロットバーナーをつけておけば、給湯栓を開けると、メーンバーナーに点火してお湯が出ます。

使用後は

1 消火ボタンを押します

●パイロットバーナーが消火します。
●開ボタン、点火ボタンがもどります。

＊お出かけやおやすみの際など長時間使用しないときはガス栓を閉めておいてください。



いっぱいまで押す

知っておいてね

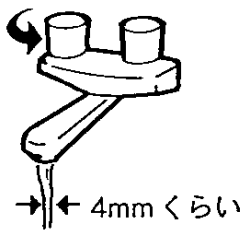
●パイロットバーナーに点火しないときは、点火ボタンから指をはなし、再度押す操作をしてください。
●工事が終わってパイロットバーナーに初めて点火されるときはガス配管中に空気がたまっていますので、点火ボタンを点火するまで何回も押して、点火操作を繰り返してください。
●開ボタンが押されていないと、給湯栓を開けてもメーンバーナーに点火しません。
●給湯栓を十分に回さないと、メーンバーナーが点火しなかったり途中で消火することがあります。
●使い始めは給湯配管内の冷水を追い出すまでしばらくお湯は出ません。
●給湯栓をしぼりすぎると消火するようになっています。（給湯栓をもっと開けてご使用ください。）
●給湯栓を全開にして使用すると、高温にならないことがあります。
（給湯栓を高温のお湯になるまでしぼってください。）
●火傷対策上、サーモスタット付混合水栓の使用をおすすめします。
●消火ボタンは必ずいっぱいまで押してください。途中で止めると点火ボタンが戻らず、パイロットバーナーが消火しないことがあります。

凍結を防ぐには

●冬期には機器内の水が凍結し、機器を破損することがあります。破損した場合、修理費用が必要となりますので次の方法で予防処置を行ってください。

1 通水による方法

●この場合、機器本体だけでなく、給水給湯配管、バルブ類の凍結予防もできます。



1. ガス栓は閉めておきます。
2. 給湯栓を開け、少量の水（1分間に約200c.c.程度）を流したままにしておきます。
3. 流量が不安定になることがありますので、約30分後に再度流量を確認してください。

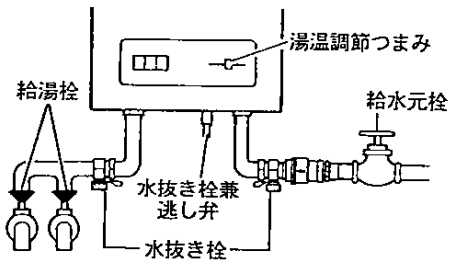
＊寒い日には多めに水を流してください。

2 機器内の水を抜く方法

長期不在・異常寒気の場合は次の手順で機器内の水を抜いてください。

●ガス栓は閉めておきます。

1. 給水元栓を閉めます。
   （寒冷地域などで不凍栓使用時は不凍栓を閉じ、給水元栓を全開にする。）
2. 全ての給湯栓を全開にします。
3. 湯温調節つまみを低温にします。
4. 水抜き栓（2個）と水抜き栓兼逃し弁をはずします。水が抜けます。



●再度お使いになる前に、水抜き栓兼逃し弁と水抜き栓をはめ、必ず給湯栓から水が出るのを確かめてから、いったん水を止め点火してください。

おねがい

この方法では配管の凍結予防はできませんので、配管は水入口・湯出口まで保温材で覆うなどして凍結予防してください。

凍結したときは…

- 凍結すると、機器の破損・異常をおこし、水漏れや空だきなどのおそれがあります。
- 凍結したときは、とけるのを待ち、水漏れや作動に異常がないかを確認してから、お使いください。
- 凍結防止せずに凍結して、機器を損傷させたり、凍結による水漏れにより床・壁等を汚した場合の修理・補修費用はお客様の負担となります。

点検・お手入れ

⚠注意

＊機器を安全・快適にお使いいただくために日常の点検・お手入れは定期的に必ず行ってください。そのときは、ガス栓を閉め、機器が冷えてから行ってください。
＊機器を分解すると故障や事故の原因になりますから絶対にしないでください。
＊お手入れの際、指先には十分注意してください。

○点検

- ●機器のまわりおよび排気ダクトのそばに燃えやすいものはありませんか。
- ●機器の外観に異常は見られませんか。
- ●運転中に異常音は聞こえませんか。
- ●機器や配管からの水漏れはありませんか。
- ●排気フード部より油がたれていませんか。
- ●ガス臭くありませんか。
- ●パイロットバーナーの炎が小さくなっていませんか。
- ●使用中の炎は正常ですか。
- ●排気筒ダクトがはずれていたり、ふさがっていませんか。

定期点検のおすすめ

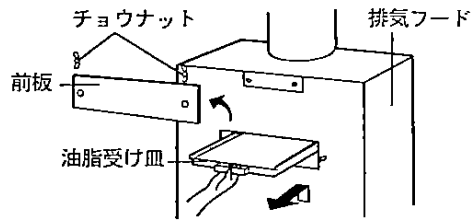
機器のご使用に支障がなくても、1年に2回程度にバーナーや各部の作動が“正常”かどうか点検をするのが安全で長期間使用していただくための“ひけつ”です。お買い上げの販売店か大阪ガスまでご相談のうえお申しつけください。(有料)

○お手入れ

機器の表面が汚れたときは、水気をしぼった布に中性洗剤を含ませ、汚れを落とした後、洗剤分と水気を十分ふき取ってください。

油脂受け皿のお手入れ

油脂受け皿は排気フード部のチョウナット（2ケ）をはずして前板をはずし、油脂受け皿の取っ手の部分を少し上に持ち上げて、たまっている油がこぼれないように引き出し、行ってください。



おねがい

- ●使用頻度によっても異なりますが、油があふれないうちに油脂受け皿のお手入れは1ケ月に1回以上行ってください。
- ●油脂受け皿のお手入れには可燃性の溶剤、その他可燃性の掃除剤を使用しないでください。
- ●湯温調節部は水垢等により作動不具合になることがありますので、月に2～3回程度湯温調節つまみを動かしてください。
- ●機器本体をタワシやブラシなどでこすらないでください。
- ●中性洗剤以外の洗剤、シンナー、ベンジン、みがき粉、スチールウールなどは使用しないでください。表面がキズつきます。また、レンジクリーナなどのアルカリ性洗剤は塗装がはがれるおそれがあります。
- ●機器外装のお手入れの際、銘板と本体表示をはがさないでください。
- ●本体は子供がいたずらしないように注意してください。
- ●点検・お手入れ後は、給湯栓を開け、機器が正常に作動するか確認してください。
- ●故障または破損したと思われるものは使用しないでください。
- ●不完全な修理は危険です。万一具合が悪くなって処置に困るような場合はお買い上げの販売店大阪ガスにご相談ください。

故障かな？と思ったら

現　象	原　因	処置方法	参照ページ
パイロットバーナーが点火しない 点火しにくい	ガス栓が閉めてある	消火ボタンを押してから、ガス栓を全開にする	56
	ガス栓の開き不十分		
	ガス配管内に空気が残っている	点火操作を繰り返す	57
	点火操作が不適切	「使用方法」に従う	56
	機器の銘板と使用ガスの不一致	点検・修理を依頼する	—
パイロットバーナーが消火する	ガス栓の開き不十分	ガス栓を全開にする	56
	安全装置が作動している	61ページ参照	61
	機器の銘板と使用ガスの不一致	点検・修理を依頼する	—
メーンバーナーが点火しない 点火しにくい	ガス栓の開き不十分	ガス栓を全開にする	56
	給水元栓が閉めてある	給水元栓を全開にする	56
	給水元栓の開き不十分		
	断水している	通水するまで使用を中止する	—
	凍結している	解凍するまで使用を中止する	58
	給湯栓をしぼりすぎている	給湯栓をもっと開く	57
	点火操作が不適切	「使用方法」に従う	57
	開ボタンの押し忘れ	開ボタンを押す	56
	水抜き栓兼逃し弁の締め込み不足	いっぱいまで締め込む	—
	安全装置が作動している	61ページ参照	61
	機器の銘板と使用ガスの不一致	点検・修理を依頼する	—
メーンバーナーが消火しやすい	給水元栓の開き不十分	給水元栓を全開にする	56
	断水している	通水するまで使用を中止する	—
	安全装置が作動している	61ページ参照	61
	給湯栓をしぼりすぎている	給湯栓をもっと開く	57
	メーンダクトの排気ファンが停止している	排気ファンを運転させる	54・56
	メーンダクトの風量が低下している	点検・修理を依頼する	—
高温のお湯が出ない	ガス栓の開き不十分	ガス栓を全開にする	56
	湯温・湯量調節が不適切	「使用方法」に従う	57
低温のお湯が出ない	湯温・湯量調節が不適切	「使用方法」に従う	57
	水温の高い季節に給湯栓をしぼって使用している	給湯栓をもっと開く	61
高温では着火するが低温では着火しない	給水元栓の開き不十分	給水元栓を全開にする	56
	給湯栓をしぼりすぎている	給湯栓をもっと開く	57
黄色い炎で燃える	機器の銘板と使用ガスの不一致	点検・修理を依頼する	—

以上のことをお調べのうえなお不具合のあるときやおわかりにならないときはお買い上げの販売店か大阪ガスまでご連絡ください。

○ 次のような場合は故障ではありません

現　象	原　因
給湯栓をしぼりすぎて水になった	この機器は水圧が作動水圧以下になったときには消火します。
夏期、低温のお湯が出ない	夏期など、水温が高いときに低温のお湯を少量得ようとすると、湯温が高くなります。 給湯栓をもっと開いて出湯量を多くすれば湯温は安定します。
水抜き栓兼逃し弁からときどき水滴が落ちる	機器内に高い圧力が生じた場合、逃し弁の働きによりときどき水滴が落ちることがありますが、水漏れではありません。 （床が濡れて困るときは、ビニールホースで支障のないところへ排水できるようにしてください。）
お湯が白く濁って見える	水中に溶け込んでいた空気が熱せられ、大気圧まで急速に減圧されることで細かい泡となって出てくる現象です。しばらくすると消えます。
寒い日に排気口から白い煙が出る	外気温が低いときには排気ガス中の水蒸気が白く見えます。

○ 安全装置の種類とその働き

●立消え安全装置

パイロットバーナーの炎が風などで吹き消えたときは、安全装置が働いて自動的にガスが止まりますが、完全に止まるまで若干の時間がかかりますのでパイロットバーナーの消火に気づいたときは、すぐ消火ボタンを押し、給湯栓を閉めてください。
再度点火するときは、すぐ点火せず、しばらく待って周囲に生ガスの臭いがなくなってから点火してください。

●排気温度センサー

メーンダクトの排気風量が低下したり、ファンが停止した場合には自動的にガスを遮断し消火させます。使用中、炎が消えたことに気づいたら、すぐ消火ボタンを押して「消火」の状態にしてください。ファンが停止している場合はファンを運転させ、10分程度待ってから再点火して様子を見てください。再点火しないときや再び消火するようなときはメーンダクトの排気風量が低下していることが考えられますので、お買い上げの販売店か大阪ガスへ連絡し、排気ファンの点検を依頼してください。

仕様

品名			33－309型
型式名			PH－161MD
ガス種			都市ガス 13A
ガス消費量 kW(kcal/h)			35.6（30,600）
出湯量（最大）ℓ/min	25℃上昇		16.0
	40℃上昇		10.0
	55℃上昇		7.2
種類	給湯方式		先止め式
	給排気方式		自然排気希釈型
点火方式			圧電点火式
水圧	使用水圧		78.5～981kPa (0.8～10.0kg/cm²)
	作動水圧	低温	34.3kPa (0.35kg/cm²)
		高温	19.6kPa (0.2kg/cm²)
外形寸法			高さ1005×幅420×奥行230 mm
重量（本体）			26kg
接続	ガス		R½（15A）
	給水		R¾（20A）
	給湯		R¾（20A）
排気筒径			φ200 mm
安全装置			立消え安全装置・過熱防止装置 排気温度センサー・排気あふれ防止センサー・水抜き枠兼逃し弁
付属品			ビニールホース、取扱説明書、工事説明書（詳細は工事説明書の「同梱包部品の確認」欄参照）

特長

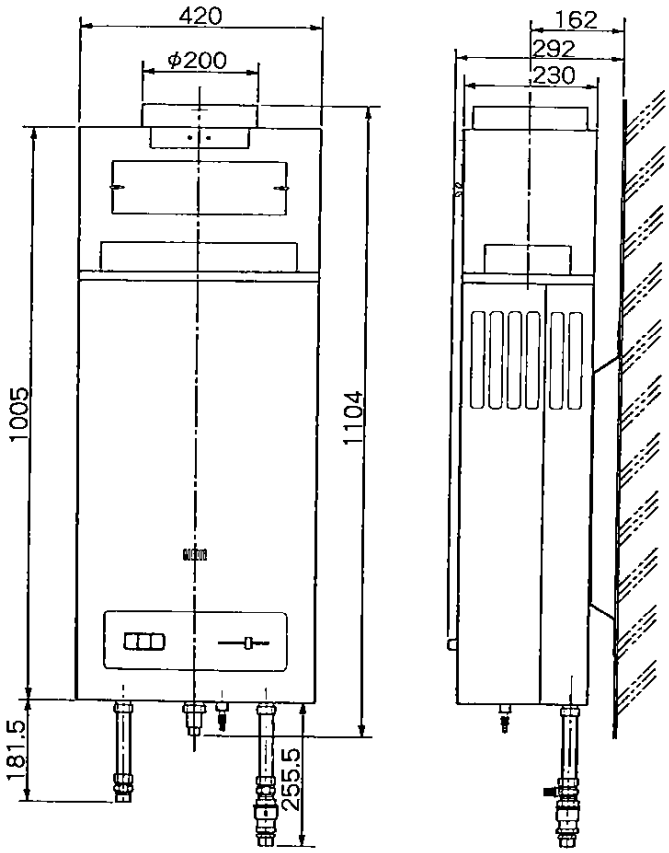
□ 厨房用排気ダクトに直接接続できます。

□ 本体操作の湯温調節タイプで、操作も簡単なプッシュ式です。

□ 排気温度センサー、立消え安全装置などの各種安全装置付き。

□ ガス比例制御で常に安定したお湯が得られます。

寸法図



単位：mm

保管とアフターサービス

○保管（長期間使用しない場合）

●長期間使用しない場合は次の操作をしてください。

(1) ガス栓を閉める

(2) 給水元栓を閉める

(3) 機器の水抜きを行う（水抜き方法は58ページを参照してください）

○アフターサービスについて

サービスのお申し込み

●まず「故障かな？と思ったら」をご確認のうえ、なお異常のあるときはお買い上げの販売店か大阪ガスにご連絡ください。

●アフターサービスをお申しつけのときは次のことをお知らせください。

1. ご住所・お名前・電話番号・道順（付近の目印等）
2. 品名‥‥33－309型
   （右のようなラベルが器具の左側面に貼り付けてあります。）
3. 現象‥‥できるだけ詳しく
4. 訪問ご希望日

（N）33－309
大阪ガス株式会社

転居される場合

●ガスの種類には都市ガスとLPガスとがあり、都市ガスにはガスグループの区分があります。ガスの種類、ガスグループの区分が異なる地域へ転居される場合には、部品の交換や調整が必要となりますので、転居先のガスの種類、ガスグループの区分を確認のうえ、お買い上げの販売店か大阪ガスにご連絡ください。
この場合、調整・改造に要する費用は保証期間内でも有料となります。
ただし、ガスの種類によっては調整できない場合もあります。

保証について

●このガス給湯器には保証書がついています。

●保証書に記載のように、ガス給湯器の故障について修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

●保証書を紛失されますと、無料保証期間内でも修理費をいただくことがありますので、この取扱説明書とともに大切に保管してください。

補修用性能部品の最低保有期間について

●無料修理期間経過後の修理については、お買い上げの販売店か大阪ガスにご相談ください。
修理によって性能が維持できる場合は有料修理します。

●補修用性能部品の最低保有期間は製造打切後7年です。
その後の修理は、補修用性能部品がなくて、修理ができない場合がありますのでご了承ください。

製造年月について

製造年月は、本体貼付けの銘板でお確かめください。
銘板の読みかたは、<例>95(製造年)・09(製造月)-276854(製造番号)です。